SWOT 分析による観光地の現状と評価

- 群馬県安中市を事例として -

前橋工科大学　○学生会員　小松　渉
前橋工科大学　　正会員　湯沢　昭

1．はじめに

観光産業は、地域における経済効果や、活気ある地域の実現のために重要な産業である。現在、観光産業は、全国的に知名度の高い観光地の一人勝ちという状況になっている。そのため認知度の低い観光地では、人口の多い大都市からの交通の便が良いことや近隣地域に有名な観光地があるといった優位な条件が揃っていても、観光産業が伸び悩んでいるという現状が見られる。認知度の低い観光地では、その現状を打開するために、新たな施策を検討している。新たな施策を検討するためには、観光地の現状把握をしておくことは必要不可欠である。

SWOT 分析は現状把握に適した手法で、合併協議や住民参加型の計画策定等で用いられる手法であるが、観光に関する施策を検討する際に用いられている事例は少ない。

このことから本研究では、認知度の低い観光地の新たな施策検討のために、SWOT 分析を用いて観光地の現状把握と評価を行うことを目的とする。

2．研究方法

本研究の対象地は群馬県安中市である。群馬県安中市は群馬県の西部に位置し、多くの観光施設や自然資源が存在する。それに加え、国道 18 号線や長野新幹線安中榛名駅を有する都市で、近隣地域には富岡製糸場といった有名な観光地が存在している。東京都や神奈川県といった大都市からの交通の便が良く、有名な観光地が近隣に存在するが、群馬県の中で見ると観光消費額や観光入込客数が少ないのが現状となっているため、対象地として設定した。

始めに、インターネットや観光白書等から群馬県安中市の観光に関するデータを入手する。次に、その入手したデータや安中市のイメージ等から SWOT 分析を行い、どのような機会を生かして強みを伸ばすか等を決定する。SWOT 分析とは、外部から影響を受けると考えられる「機会・脅威」と、内部に持つ「強み(長所)・弱み(短所)」をそれぞれ整理しながら、機会を生かして強みを伸ばす等の分析を進めるマーケティング手法である。

次に、SWOT 分析から決定した事項について、詳細な情報を得るためにアンケート調査を行う(表－1)。アンケート調査では、主に来訪者が他にどのような場所を訪れたのか等を調査した。なお、質問項目の来訪者が回った場所については「群馬の観光 100 選」から 50 箇所、長野県軽井沢町から 2 箇所の全 52 箇所を選択し、記載した。

表-1　アンケート調査の概要

	碓氷峠鉄道文化むら	富岡製糸場
調査日	H20.8/31、9/7	H20.8/30、9/7
配布方法	直接配布	
回収方法	郵送回収	
配布枚数	550	550
回収枚数	147	167
回収率	26.7%	30.3%

表-2　群馬県安中市の SWOT 分析の例

強み(Sterngths)	弱み(Weaknesses)
・東京、神奈川など首都圏からの来訪者が多い ・自然が豊かで、歴史的施設が多い ・国道18号線沿いに多くの観光地が存在する ・磯部温泉が信越線磯部駅から近い位置にある ・大都市からの交通の便が良い	・路線バスの整備が不十分 ・磯部温泉の認知度、人気が低い ・信越新幹線安中榛名駅の利用客が少ない ・交通、観光ルートの整備が不十分 ・観光地の認知度が低い ・ホームページなどの情報発信が不十分 ・観光資源間や近隣市町村との連携が取れていない
機会(Opportunities)	脅威(Threats)
・観光客の自然・健康志向 ・団塊の世代の退職に伴う市場の拡大 ・観光立国推進基本法の施行 ・安中市周辺の観光地(富岡製糸場など)の認知度が高い ・外国人観光客の増加 ・有給休暇取得率の向上 ・日帰り観光客の増加	・観光地間の競争の激化 ・原油の高騰 ・少子高齢化の進行 ・国内の宿泊観光旅行回数、宿泊数の減少 ・群馬県、安中市の宿泊観光客数が減少

最後に、アンケート調査によって得られた集計結果や分析結果から、群馬県安中市の観光地の現状把握と課題の抽出を行う。

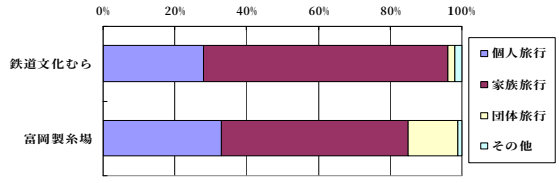
3．研究結果

入手したデータや安中市のイメージ等から SWOT 分析を行った(表-2)。SWOT 分析の結果から、一例として、「機会:安中市周辺の観光地の認知度が高い」を生かし、「強み:国道 18 号線沿いに多く観光地がある」を伸ばしていくための対策を検討することとした。それは、認知度の高い観光地から安中市の観光地への観光ルートを設定することで、安中市の観光地へのさらなる集客が期待できるのではないかと推測し、その項目を決定した。

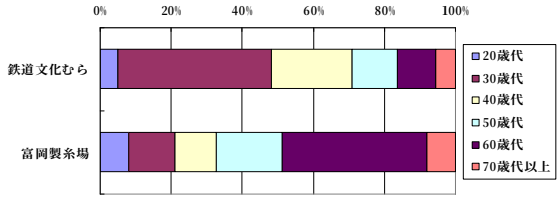
次に、来訪者がどのような観光地を訪れたのかを定量的に評価するため、アンケート調査を行った。碓氷峠鉄道文化むら(以下、鉄道文化むら)と富岡製糸場の来訪者の旅行形態、年代、交通手段は図-1～図-3 に示す通りとなった。旅行形態はともに家族旅行が多く、比較すると富岡製糸場

キーワード：観光、SWOT 分析、クラスター分析

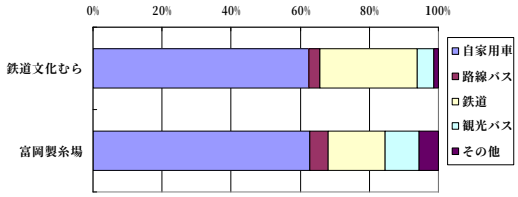
連絡先：〒371-0816　群馬県前橋市上佐鳥町 460-1　前橋工科大学工学部建設工学科
TEL／FAX：027-265-7362　E-MAIL：yuzawa@maebashi-it.ac.jp



図－1　来訪者の旅行形態



図－2　来訪者の年代

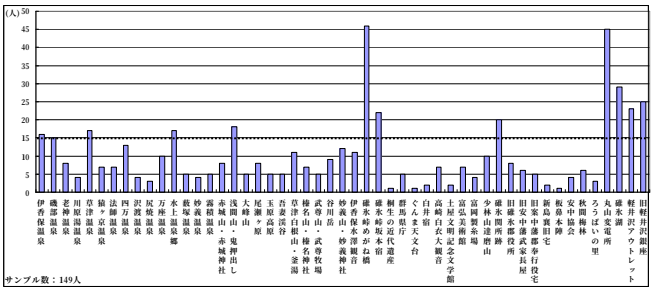


図－3　来訪者の交通手段

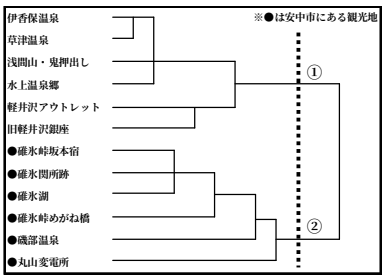
では団体旅行の割合が多くなっている。年代は、鉄道文化むらは 30 歳代、40 歳代と若い年代が多く、富岡製糸場は 60 歳代、70 歳代以上と高い年代が多い。交通手段はともに自家用車が 6 割以上となっており、2 箇所を比較すると鉄道文化むらでは鉄道利用の割合が、富岡製糸場では観光バスを利用する割合が多い結果となった。

鉄道文化むらの来訪者が他にどのような場所を訪れたのかを集計した。図-4 より、鉄道文化むらの来訪者は、鉄道文化むらから徒歩で行くことができる碓氷峠めがね橋や丸山変電所に行くということや、軽井沢に移動する結果となった。次に、来訪者が他に訪れた場所を分類するためにクラスター分(Ward 法を採用)を行った(図-5)。クラスター分析は人数が少ないところを除き、ある程度の人が行ったところを分類するため、サンプル数 149 人の 1 割(15 人)以上の人が行った場所のみを選択して行った。図－5 の点線で区切ると「①:安中市外」、「②:安中市内」の 2 つに分類できた。また、クラスター分析で分類された安中市内の観光地のほとんどは国道 18 号線沿いにある。以上の結果より、鉄道文化むらの来訪者はある程度限定された地域を移動していることが分かった。これは、鉄道文化むらを訪れる人は、旅行形態が個人旅行や家族旅行であることが多く、行動範囲が比較的狭いという理由でこのような結果になったと考えられる。

次に、富岡製糸場の来訪者についても鉄道文化むらと同様の分析を行った。富岡製糸場の来訪者は温泉地、軽井沢に移動する結果となった。また、クラスター分析を行った結果、「①:温泉地・山」、「②:軽井沢」、「③: 鉄道文化むら」、「④:その他」の 4 つに分類できた。クラスター分析の結果



図－4　他に訪れた観光地(碓氷峠鉄道文化むら)



図－5　クラスター分析結果(碓氷峠鉄道文化むら)

やアンケートの集計結果より、富岡製糸場の来訪者は、限定された地域を移動するのではく、広域的に移動しているということが分かった。これは、観光バスによる団体旅行で、始めから観光ルートが決定していることや安中市にどのような観光地があるか分からないため、富岡製糸場→安中市の観光地となっていないことが原因でこのような結果になったと考えられる。

4．まとめ

SWOT 分析の結果から、近年の観光の動向と群馬県安中市の現状が分かった。アンケートの集計結果とクラスター分析より、鉄道文化むらでは、家族旅行と若い年代が多く、限定された地域に移動する。富岡製糸場では、鉄道文化むらと比較すると団体旅行が多く、年代は高い年代が多い。また、広域的に移動する人が多いことが分かった。交通手段は、ともに自家用車が 6 割以上と多く、比較すると鉄道文化むらは鉄道利用の割合が、富岡製糸場は観光バス利用の割合が多い結果となった。

今後は、具体的にどの観光地からどの観光地に移動しているかを調べ、近隣の有名な観光地から安中市の観光地へ誘導するための観光ルートの設定を行うことが必要になってくると考えられる。また、今回採用した SWOT 分析の項目だけでなく、他の項目についても取り上げ、対策を検討していかなければならない。例えば、「脅威:観光地間の競争激化」を避けて、「弱み:観光地の認知度低い」を改善するために、どのような年代の人がどのような情報源を利用しているかという現状を調査し、課題を見つけていく必要があると考えられる。その中で、群馬県安中市にとってどのような対策を取ることが一番良いのかを検討する必要があると考えられる。